

第15回

子育て支援シンポジウム

子どもの虐待

～なぜ、いま、そして何を？～

子育てに苦労されている親御さんの姿に、医師・歯科医師としてできることはないだろうか、との疑問を端緒に「子育て支援」をテーマにした企画を毎年開催してきました。

今回は、「子どもの虐待～なぜ、いま、そして何を？～」をメインテーマにしました。子どもたちを取り巻く現状やサポート等について、参加者と一緒に考えたいと思います。みなさんのご参加をお待ちしています。

日時 2018年2月4日(日)

午前10時～午後12時30分
※開場は9時30分です。

会場 東京エレクトロンホール宮城
(宮城県民会館 601大会議室)
(仙台市青葉区国分町3-3-7 TEL 022-225-8641)

**参加費
無料**

この催しは参加自由です。専門職の方や子育てでお悩みの親御さん等ぜひご参加下さい。
定員150名になり次第締め切らせていただきます。

シンポジスト

『これって「しつけ」なの？
「虐待」なの？ -暴力の戒める技とは-』

仙台市立病院副院長
救命救急センター長・小児科医長

村田 祐二氏

“子どものため”と思って、子どもを怒鳴ったり叩いたりしていませんか。子どもの立場になって子どもの“気持ち”を考えてみませんか。親の“気持ち”は伝わったのでしょうか。伝えたい事を言葉に変えてみませんか。暴力の感染力はとても強力です。そして子どもの脳の形まで変えてしまいます。「自己肯定感」と「達成感」は、人生を有意義に生きるための必須アイテムです。この2つが達成できていない子に「しつけ」は存在しません。

「子ども達の健やかな発育のために～子ども虐待を発見あるいは疑うとき～」

阿部 歯科医院院長

阿部 清一郎氏

平成20年に学校歯科委員会と中央児童相談所ならびに仙台市児童相談所を歯科衛生士を帯同して訪問し、口腔衛生指導ならびに口腔内の検診を行いました。その結果と宮城県公立学校歯科検診データと比較したところ、むし歯の多い口腔内状態であり、さらに治療を受ける機会が少ない事、また歯垢付着有りと判定された者の割合がいずれの年齢でも有意に高く、口腔内清掃が不十分な事を推測させられました。歯科医師が健康診断などの機会に、虐待を受けている子どもに遭遇し、発見、あるいは疑いを持つことがあり、この所見や情報が児童生徒の人権を擁護し、早期介入の手がかりとなる可能性があります。

「虐待はなくならない。でも…」

宮城教育大学教職大学院教授

関口 博久氏

精神科医として医療現場で仕事をし、児童相談所長として児童福祉の最前線で8年間を過ごし、そして今は教員養成・教育現場の支援に携わる立場から、断言せざるを得ない。残念なことだが、児童虐待はなくならない！ただし、増加傾向に歯止めを掛け、「被虐待」のネガティブな影響を少なくしていくためにできることは、まだまだたくさんあるのではないかと考えています。シンポジウムを通して考えたい。

◎申込み・問い合わせ／宮城県保険医協会

仙台市青葉区本町2-1-29 仙台本町ホンマビル4階
TEL 022-265-1667 / FAX 022-265-0576

主催：宮城県保険医協会

後援：宮城県、宮城県教育委員会、仙台市、仙台市教育委員会、(公社)宮城県医師会、(一社)宮城県歯科医師会、(一社)仙台市医師会、(一社)仙台歯科医師会、仙台小児科医会、(公社)宮城県看護協会、宮城県ユニセフ協会、(公財)仙台YMCA、(NHK)仙台放送局、三キテレビ、仙台放送、KHB東日本放送、TBC東北放送、河北新報社、読売新聞東北総局、朝日新聞仙台総局、毎日新聞仙台支局、産経新聞社東北総局、エフエム仙台

【参加申込み書】 FAX 022-265-0576 までお送り下さい。

()名参加します。

お名前 _____ 職 種 _____

連絡先 _____